

第 24 期 滋賀県スポーツ推進審議会委員名簿

※委員は五十音順（敬称略）

委員氏名	現職等	備考
おおた ちえこ 太田 千恵子	一般社団法人滋賀県障害者スポーツ協会 理事	
おおたに みお 大谷 未央	レイラック滋賀FCレディース 監督	
かえつ かずこ 嘉悦 和子	滋賀県スポーツ推進委員協議会 副会長	
かど く に ひろ 門 久仁裕	公益財団法人滋賀県スポーツ協会 常務理事	
ごとう けいいち 後藤 敬一	滋賀ダイハツ販売株式会社 会長	欠席
たかだ たけし 高田 毅	滋賀県中学校体育連盟 会長	
たかだ ひろゆき 高田 博之	公益社団法人びわこビジターズビューロー 事務局次長	欠席
たけだ さとこ 武田 哲子	びわこ成蹊スポーツ大学スポーツ学部 准教授	欠席
たなか ゆかり 田中 ゆかり	米原市立坂田小学校 教諭	欠席
ながはま あきこ 永浜 明子	立命館大学スポーツ健康科学部 教授	Web出席
はしもと たかこ 橋本 孝子	NPO法人きのもとアイズ 理事	Web出席
ひびの としあき 日比野 敏陽	株式会社京都新聞社滋賀本社 編集部長	欠席
もりなか たかふみ 森中 高史	守山市 市長	
やまおか あやか 山岡 彩加	公募委員（同志社大学ボート部ケアコーチ）	
よこやま かつひこ 横山 勝彦	同志社大学スポーツ健康科学部 教授	

委員 15 名（出席 10 名）

第2期滋賀県スポーツ推進計画の指標の状況

基本方針		政策	指標	計画策定時	現状	対前年比較	目標(R4)	目標達成率	達成状況	未達成となった理由や背景
スポーツ推進の具体的展開	I	スポーツの力で「豊かで健やかな生活」を創る！	成人(男・女)の週1回以上のスポーツ実施率	(H28) 男性:35.6% 女性:36.8%	(R4) 男性:56.7% 女性:49.2%	↑ ↑	男女ともに65%以上	71.8% 44.0%	△ △	・女性や20歳～40歳代のいわゆる「働き盛り世代」の実施率が低く、①機会がない ②したいと思わない ③仕事等が忙しくて時間がないが理由にあげられている。 ・コロナ禍での在宅ワークやオンライン授業等を生かした社会生活から、基本的な感染症対策を徹底した上で社会経済文化活動に取り組むことが定着し、コロナ禍以前のような社会生活に一定戻ったことにより、運動・スポーツに充てる時間が少なくなったことが要因の一つと考えられる。
			子ども(男・女)の1週間の運動・スポーツ実施時間(※土日を含み、平日の授業を除く)【小学5年生】	(H28) 男子:590.7分 女子:347.2分	(R4) 男子:543.3分 女子:321.5分	↑ ↑	男子:625分 女子:382分	0% 0%	△ △	前年度に比べて、小学5年生の1週間の運動・スポーツの実施時間は増加したものの、コロナ禍で基本的な感染対策が必要であったり、集まるとの外遊びを避ける状況等にあったことが、前年度に比べて微増にとどまった要因の一つとして考えられる。
			障害者の週1回以上のスポーツ実施率	(H29) 38.1%	(R4) 38.4%	↑	65%以上	1.1%	△	スポーツ・レクリエーションに取り組んでいない人は、①体力がない ②どこで、どんなスポーツ等ができるか情報が得られない ③スポーツ等が苦手 ④やりたいと思うスポーツ等がないといった回答をされており、スポーツ・レクリエーションに関する情報不足が阻害要因の一つと考えられる。
		2 スポーツの持つ多様な価値の共有	しがスポーツ大使の就任数	(H28) 26者	(R4) 50者	↑	50者以上	100%	○	
			アスリートを採用した県内企業数	(H28) 32社	(R4) 53社	↑	45社以上	100%	○	
			スポーツボランティア登録者数(本県ボランティア登録システム利用)	(H28) 334人	(R4) 4,115人	↑	2,000人以上	100%	○	
	II	3 スポーツ施設・環境の充実	総合型地域スポーツクラブで指導する有資格スポーツ指導者数	(H28) 267人	(R4) 447人	↑	370人以上	100%	○	
			県内の公共スポーツ施設の利用者数	(H26) 6,617,409人	(R4) 5,146,796人	↑	730万人以上	0%	△	緊急事態宣言発令等による施設閉鎖がなく、また、基本的な感染症対策を徹底した上でスポーツ活動に取り組むことが定着したことから利用者数は前年度より増加したが、自宅周辺等のより身近な場所で運動・スポーツに取り組むことが増えたこともありコロナ禍以前の利用状況には戻っていない。
		4 スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化	民間団体等の実施するスポーツイベントへの県の後援件数	(H28) 155件	(R4) 106件	↑	200件以上	0%	△	コロナ禍の中でスポーツイベントの開催が控えられたことなどにより、これまで開催されてきた大会等が後援申請されなくなったため。 (参考 H30後援イベント(144件)でR4年度も引き続き後援しているもの 51件)
			スポーツ・レクリエーションを目的とする観光入込客数	(H28) 1,002万人	(R4) 983万人(速報値)	↑	1,200万人以上	0%	△	県で宿泊周遊キャンペーン事業が展開されたことなどにより観光入込客数は前年度から上回ったものの、コロナ禍前の人数(R元 1,105万人)までは回復していない。
			滋賀県を本拠地とするプロスポーツチーム等のホームゲーム観客数	(2017シーズン) 60,844人	(2022シーズン) 89,860人	↑	10万人以上	74.1%	△	多くのチームで入場制限が解除されたものの、1試合当たりの平均観客入場者数がコロナ禍前(2018年)の人数に戻り切っていないチームや、所属リーグの改編により試合数が減少したチームがあったため、目標達成はできなかった。
			国体総合順位	(H29) 39位	(R4) 20位	↑	8位以内※ ※県競技力向上基本計画目標(R3改定後)10位台	61.3%	△	総合順位は目標に届かなかったものの、総合得点や入賞数などの項目で県競技力向上対策本部において設定していた年次目標を上回ることができた。 一方、今大会で得点をあげた競技のほとんどはこれまでも入賞実績のある競技であり、開催年での目標である総合優勝に向けて未入賞・未出場競技での得点獲得が必要である。
III	5 国体・全国障害者スポーツ大会等に向けた競技力向上と競技者の拡大	県障害者スポーツ大会の参加者数(実数)	(H29) 773人	(R4) 581人	↑	1,000人以上	0%	△	感染症対策を講じながら競技大会が開催できたものの、これまで参加されてきた高齢層(60歳代以上)を中心に、感染リスクを理由に各競技のエントリーを控えられたことにより、大会参加者の数が伸びなかったため。(20歳代以下はフェスタの部の開催や特別支援学校への働きかけ等により回復傾向)	
		6 地域の特性を活かした大会レガシーの創出	オリンピック・パラリンピックのホストタウンを通じて海外との交流を始めた市町数	(H28) 3市	(R3) 5市	→	6市町以上	66.7%	△	東京オリ・パラの事前合宿の受入れにあたり、いわゆる「バブル方式」の徹底といった厳しい感染症対策を講じるが必要となり自治体の人的・財政的負担が重くなる中で、選手との直接の交流もできなくなったことから、県内で新たにホストタウンに立候補する自治体が多かったため。

対前年比較の状況
前年度(R3年度)よりも増加している場合は「↑」、減少している場合は「↓」、増減なしの場合は「→」とする。

目標達成率の算定方法
(R4実績－基準)／(R4目標－基準)×100
※達成率がマイナスとなったものは「0%」、100を超えたものは「100%」とする。
達成状況の判断基準
達成率が100%の場合は「○」、100%に満たない場合は「△」とする。

別紙 第2期滋賀県スポーツ推進計画 指標の推移と達成率

指 標	計画策定時	現 状					目 標 R4	達成率 (%)
		H30	R1	R2	R3	R4		
I スポーツの力で「豊かで健やかな生活」を創る！								
指標 1 生涯にわたるすべての県民のスポーツ活動の充実								
① 成人（男・女）の週1回以上のスポーツ実施率	男 35.6% 女 36.8% (ともにH28)	39.7% 40.0%	45.6% 42.4%	50.1% 47.4%	55.2% 48.6%	56.7% 49.2%	65.0% 65.0%	71.8 44.0
② 子ども（男・女）の1週間の運動・スポーツ実施時間（土日を含み、平日授業を除く）【小学5年生】	男 590.7分 女 347.2分 (ともにH28)	588.6分 341.7分	558.8分 330.2分	— —	527.5分 313.4分	543.3分 321.5分	625分 382分	0 0
③ 障害者の週1回以上のスポーツ実施率	38.1% (H29)	—	—	28.9%	—	38.4%	65.0%	1.1
2 スポーツの持つ多様な価値の共有								
④ しがスポーツ大使の就任数	26者 (H28)	34者	38者	40者	48者	50者	50者	100
⑤ アスリートを採用した県内企業数	32社 (H28)	32社	39社	44社	46社	53社	45社	100
⑥ スポーツボランティア登録者数（本県ボランティア登録システム利用）	334人 (H28)	1,789人	3,379人	3,629人	3,823人	4,115人	2,000人	100
II スポーツの力で「元気な地域」を創る！								
3 スポーツ施設・環境の充実								
⑦ 総合型地域スポーツクラブで指導する有資格スポーツ指導者数	267人 (H28)	229人	280人	283人	396人	447人	370人	100
⑧ 県内の公共スポーツ施設の利用者数	6,617,409人 (H26)	5,826,776人	5,699,024人	3,483,340人	4,110,524人	5,146,796人	7,300,000人	0
4 スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化								
⑨ 民間団体等の実施するスポーツイベントへの県の後援件数	155件 (H28)	144件	128件	54件	96件	106件	200件	0
⑩ スポーツ・レクリエーションを目的とする観光入込客数	1,002万人 (H28)	1,091万人	1,105万人	795万人	876万人	983万人 (速報値)	1,200万人	0
⑪ 滋賀県を本拠地とするプロスポーツチーム等のホームゲーム観客数	60,844人 (H29)	95,753人	73,262人	35,211人	42,174人	89,860人	100,000人	74.1
III スポーツの力で「感動の滋賀」を創る！								
5 国体・全国障害者スポーツ大会等に向けた競技力の向上と競技者の拡大								
⑫ 国体総合順位	39位 (H29)	31位	30位	—	—	20位	8位	61.3
⑬ 県障害者スポーツ大会の参加者数	773人 (H29)	757人	708人	150人	562人	581人	1,000人	0
6 地域の特性を活かした大会レガシーの創出								
⑭ オリンピック・パラリンピックを通じて海外との交流を始めた市町数	3市 (H28)	5市	5市	5市	5市	5市	6市	66.7
⑮ スポーツボランティア登録者数（本県ボランティア登録システム利用） ※再掲	334人 (H28)	1,789人	3,379人	3,629人	3,823人	4,115人	2,000人	100
⑯ 成人（男・女）の週1回以上のスポーツ実施率 ※再掲	男 35.6% 女 36.8% (ともにH28)	39.7% 40.0%	45.6% 42.4%	50.1% 47.4%	55.2% 48.6%	56.7% 49.2%	65.0% 65.0%	71.8 44.0

第2期滋賀県スポーツ推進計画に基づく事業の実施状況

I スポーツの力で「豊かで健やかな生活」を創る！

1 生涯にわたるすべての県民のスポーツ活動の充実

(1) 県民の運動・スポーツ実施率向上に向けた取組

- 令和4年度調査によると、本県の成人の週1日以上スポーツ実施率は52.9%であり、令和3年度調査に比べ0.9ポイント上昇し、国の実施率52.3%を上回った。

【成人の週1日以上運動・スポーツ実施率（国との比較）】

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	目標
全国	51.5%	55.1%	53.6%	59.9%	56.4%	52.3	65% (R3)
滋賀県	(36.0%)	39.9%	44.1%	48.7%	52.0%	52.9	65% (R4)
差	(△15.5%)	△15.2	△9.5	△11.2	△4.4	0.3	—

(出典) 国：スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」(H28～R4)

県：「滋賀県スポーツ実施状況調査」(H30～R4)

(注) 県では平成29年度に調査を実施していないため、H28調査数値を()で記載。

- 県民の運動・スポーツ実施率の向上を図るため、運動・スポーツ実施率の低い働き盛りの世代や女性を対象に、健康増進アプリを活用したバーチャルウォーキングキャンペーンや、県内の歴史・観光資源を活用した実地のウォーキングイベントを実施した。

(2) 子どもの運動・スポーツ活動充実に向けた取組

- 本県の子どもが、自ら進んで楽しみながら運動・スポーツに取り組めるようにするため、子どもの運動・スポーツ活動の充実に向けた取組を推進する。

① 幼児期からの運動（遊び）・スポーツ活動の充実

② 体育科、保健体育科の授業の充実

- ・全国学校体育研究大会滋賀大会の開催
- ・子どもの体力向上推進事業（運動機会の充実、授業改善、教員の指導力向上等）
- ・「健やかタイム」等の体力向上策を実施(チャレンジランキング、体育の宿題 等)

③ 運動部活動の活性化

- ・コロナ対策を徹底し、中学・高校で総合体育大会等が開催
- ・部活動指導員配置促進事業（人材バンクの充実等）
- ・運動部活動の地域移行を見据えたモデル事業の実施

(3) 障害のある人の参加機会の拡大

- 障害のある方々が身近な地域でスポーツを実施できる環境を整備するため、総合型地域スポーツクラブおよび市障害者スポーツ協会の 16 か所で障害者スポーツ教室を実施し、全体で 140 回開催、延べ 1,616 名の参加があった。
- 一般社団法人滋賀県障害者スポーツ協会と連携して県内 4 地域で障害者スポーツを体験できるイベントを開催し、延べ 628 名の参加があった。また、全国障害者スポーツ大会出場者を選考する県障害者スポーツ大会において、気軽に参加できる「スポーツフェスタの部」を個人 4 競技で実施し、延べ 210 名の参加があった。

2 スポーツの持つ多様な価値の共有

(1) トップアスリート等との交流機会の創出

- 本県ゆかりのトップアスリートや全国で活躍するスポーツチーム 50 者を「しがスポーツ大使」に委嘱し、小学校等での講演会やスポーツ体験教室などに大使を派遣し、県民との交流を推進した。(令和 4 年度 28 件、交流者数 6,356 名)

【交流事業の一例】

■スポーツイベント

大 使：望月 聡さん（元サッカーなでしこジャパンコーチ）

日 時：令和 4 年 9 月 11 日（日）

場 所：木之本スポーツ広場

交流者：年中・年長児、小学 1・2 年生および
保護者 74 名

内 容：親子を対象としたサッカー教室を実施。
望月氏の「失敗ナンバーワンになろう」
「とにかくチャレンジしよう」といった
言葉のもと、子どもたちが前向きに最後
まで取り組む姿が見えた。



■講演会

大 使：藤井 由美子さん（ブラインドマラソン選手、東京パラリンピアン）

日 時：令和 4 年 11 月 15 日（火）

場 所：大津市北部地域文化センター

交流者：大津市立堅田中学校生徒 377 名

内 容：「ブラインドマラソンを通して福祉を理解する」と題した講演会。
藤井さんのブラインドマラソンの経験を通してノーマライゼーションについて考えたほか、伴走体験等を通して視覚障害への理解を深める機会となった。



(2) アスリートの就職支援制度の充実

- 平成31年4月に開設した「SHIGA アスリートナビ」を活用して競技力の高いアスリートと県内企業との就職マッチングを実施し、競技力の底上げを図った。
(令和4年度 アスリート 33名/12社採用)

(3) スポーツボランティア活動の応援・促進

- 県民がスポーツボランティア活動へ気軽に参加できる枠組みを整備し、活動への支援を通じてスポーツボランティアの魅力や楽しさを普及するための組織である「しがスポーツボランティア協議会」に対し、補助を行った。
- 協議会では、研修会やボランティア交流会を開催したほか、びわ湖マラソンやプロスポーツチームのホームゲーム等のスポーツイベントでの活躍の場を提供した。
 - ・令和5年3月31日現在登録者数：4,115名
 - ・研修会 12回 286名参加
 - ・交流会 1回 89名参加 ゲスト：福士加代子氏
 - ・ボランティア活動参加者：延べ893名

Ⅱ スポーツの力で「元気な地域」を創る！

3 スポーツ施設・環境の充実

(1) 地域スポーツクラブの育成

- 総合型地域スポーツクラブの育成・支援や地域スポーツ指導者研修会を実施した。

市町巡回指導等：19市町 91回
アシスタントマネージャー養成研修：20名参加（内6名資格取得）
地域スポーツ指導者研修：2回開催 46名参加
- 令和4年度から総合型地域スポーツクラブの登録・認証制度が始まり、県内にある55クラブの内25クラブが申請し、登録された。

(2) 県立スポーツ施設等の整備状況

- 以下の県立施設等については、2025年開催の国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会での活用はもとより、本県のスポーツ振興や県民の健康づくりに資する整備を進める。

①彦根総合スポーツ公園（平和堂HATOスタジアム、平和堂げんきっこフィールド）

彦根総合スポーツ公園は、両大会の主会場としてはもとより、将来のスポーツ振興やスポーツを通じた健康増進、地域の活性化のための施設として整備を進めており、令和4年12月に陸上競技場・補助競技場が完成し、令和5年4月から供用を開始した。

※令和5年2月より、株式会社平和堂がネーミングライツパートナーとなり、陸上競技場の愛称を「平和堂HATOスタジアム」、補助競技場の愛称を「平和堂げんきっこフィールド」とした。また、令和5年4月より、HPL株式会社がネーミングライツパートナーとなり、野球場の愛称を「HPLベースボールパーク」とした。

【整備スケジュール】

平成 29 年度～令和 4 年度



完成予定鳥瞰図



事業地南側から撮影（令和 5 年 3 月）

②滋賀ダイハツアリーナ

老朽化が進み、施設が狭隘となっている現体育館（ウカルちゃんアリーナ）と、スポーツ会館が有するトレーニング機能を複合化させ、びわこ文化公園都市内に移設整備することとし、両大会の競技会場として活用することはもとより、県民のスポーツ・健康づくりの拠点施設とする。

令和 4 年 9 月に整備が完了し、12 月から供用を開始した。

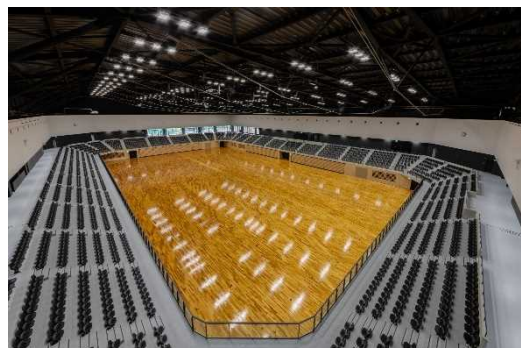
※令和 4 年 10 月より、滋賀ダイハツ販売株式会社がネーミングライツパートナーとなり、滋賀アリーナの愛称を「滋賀ダイハツアリーナ」とした。

【整備スケジュール】

令和元年度～令和 4 年度



事業地南側から撮影（令和 4 年 9 月）



メインアリーナ内を撮影（令和 4 年 9 月）

③関西みらいローイングセンター

消波装置の設置などのコース改修については令和 2 年 4 月に工事が完了しており、管理棟や艇庫の改築についても、令和 3 年 3 月に新施設を供用開始している。

※令和 3 年 4 月より、株式会社関西みらい銀行がネーミングライツパートナーとなり、琵琶湖漕艇場の愛称を「関西みらいローイングセンター」とした。

【整備スケジュール】

平成30年度～令和3年度



管理棟・艇庫入り口を撮影



管理棟・艇庫を琵琶湖から撮影

④柳が崎ヨットハーバー

国民スポーツ大会においてセーリング競技会場となることから、大会時の艇置場を確保するため、ヨットハーバー内の老朽化した艇庫・管理棟を再整備する。

【整備スケジュール】

令和4年度～令和5年度



現在の艇庫・管理棟



バルコニー



外壁パネルの破損

⑤希望が丘文化公園

国民スポーツ大会において、ラグビーフットボール競技会場として活用することから、老朽化が進んでいる球技場・陸上競技場について、それぞれ人工芝への張替、天然芝の改修およびスポーツ会館の老朽化対策などを実施した。今後、球技場の照明設備工事を実施する。

【整備スケジュール】

令和元年度～令和5年度



スポーツ会館完成写真



体育室

⑥（仮称）草津市立プール

廃止された県立スイミングセンターの代替機能を担うものとして、基本協定書に基づき、県が財政支援を実施しており、令和6年6月に供用開始を予定している。

【整備スケジュール】

平成30年度～令和6年度



事業地南東側から撮影（令和5年6月撮影）

(4) 琵琶湖などの自然を活かしたスポーツの推進

- びわ湖毎日マラソンとびわ湖レイクサイドマラソンの伝統を引き継いだ新たな市民マラソン大会「びわ湖マラソン」の第一回大会を開催し、県内外から多くの選手に参加いただいた。（出走者数6,332名）
- その他、BIWAKO クロカンは継続的な開催により1,324名の方に参加いただき、新型コロナウイルス感染症の影響により3年ぶりの開催となった朝日レガッタでは、999名の方が大会に参加していただいた。
- 琵琶湖をはじめ、本県の自然や地理的特徴を活かしたスポーツ大会の開催により、県内外の方々に滋賀の魅力を体感していただくことができた。



びわこマラソン 2023



朝日レガッタ

4 スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化

(1) プロスポーツ・スポーツイベントを活かした地域の活性化

- 本県のスポーツ振興に欠かせない存在である県内プロスポーツチーム等の集客力や発信力を活用し、試合会場等で国スポ・障スポ等の大規模スポーツ大会の周知と機運醸成を図るとともに、各チームのSNS等を活用して運動習慣化や障害者スポーツの理解促進を目的とした啓発を実施した。

対象チーム	観客数	SNS登録者数
滋賀レイクスターズ(バスケットボール)	約70,300人	約80,000人
東レアローズ(バレーボール)	約8,200人	約49,000人
滋賀GOブラックス(野球)※活動休止	約3,700人	—
レイラック滋賀FC(旧MIOびわこ滋賀)(サッカー)	約7,800人	約9,000人

(2) ワールドマスターゲームズ2021 関西

- 令和4年5月に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和9年5月に再延期することが決定された。
- 現在、開催自治体や競技団体との調整、広報啓発など大会の開催に向けた準備を進めている。

【ワールドマスターズゲームズ2027 県内開催競技一覧】

競技(種目)	開催自治体
①陸上競技(10km ロードレース)	彦根市
②軟式野球	東近江市、守山市
③ドラゴンボート	大津市
④ホッケー	米原市
⑤ボート	大津市
⑥ソフトボール	草津市、守山市、東近江市

※オープン競技としてパドルテニス(守山市)、トレイルランニング(高島市)を開催

Ⅲ スポーツの力で「感動の滋賀」を創る！

5 国体・全国障害者スポーツ大会等に向けた競技力向上と競技者の拡大 選手の育成・強化等

- 「わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ」に向け、県、県教育委員会、市町、県スポーツ協会、県障害者スポーツ協会、教育関係、経済産業関係、学識経験者など幅広い主体の参画を得て「滋賀県競技力向上対策本部」を設置、総合優勝である「天皇杯獲得」を目標に競技力向上に取り組んでいる。

〔近年の国体成績の推移〕

開催年	H29年	H30年	R1年	R2年	R3年	R4年
開催県	72回愛媛	73回福井	74回茨城	75回鹿児島	76回三重	77回栃木
総合成績	39位	31位	30位	—	—	20位
総合得点	803.5点	854.5点	870.5点	—	—	1096.5点

- 第77回国民体育大会(本国体)が3年ぶりに開催され、本県は順位こそ目標(10位台への進出)に届かなかったものの、総合得点や入賞数などの項目で目標を上回ることができた。一方、今大会で得点をあげた競技のほとんどはこれまでも入賞実績のある競技であり、開催年での目標達成に向けては未入賞・未出場競技での得点獲得が必要となっ

てくる。

第 22 回全国障害者スポーツ大会は 4 年ぶりの開催となり、前回大会を上回る金メダル獲得などの成果があった。今後は開催年に向け依然不足する選手・スタッフの確保を図る必要がある。

○令和 5 年度においては「天皇杯順位 10 位以内」を全体の目標として定め、下記 5 つの基本方針のもと、競技力向上対策を進める。

- ① 重点強化種別・種目に対する戦略的支援の実施
- ② 成年選手確保計画に基づく新戦力の獲得と成年選手活動支援強化
- ③ 少年種別代表選手・チームの重点強化とターゲットエイジ強化選手の更なる強化
- ④ 国体出場選手・チームの指導体制の確立と選手サポート体制の充実
- ⑤ 「わた SHIGA 輝く障スポ」に向けた選手・スタッフの確保と育成・強化事業の充実

6 地域の特性を活かした大会レガシーの創出

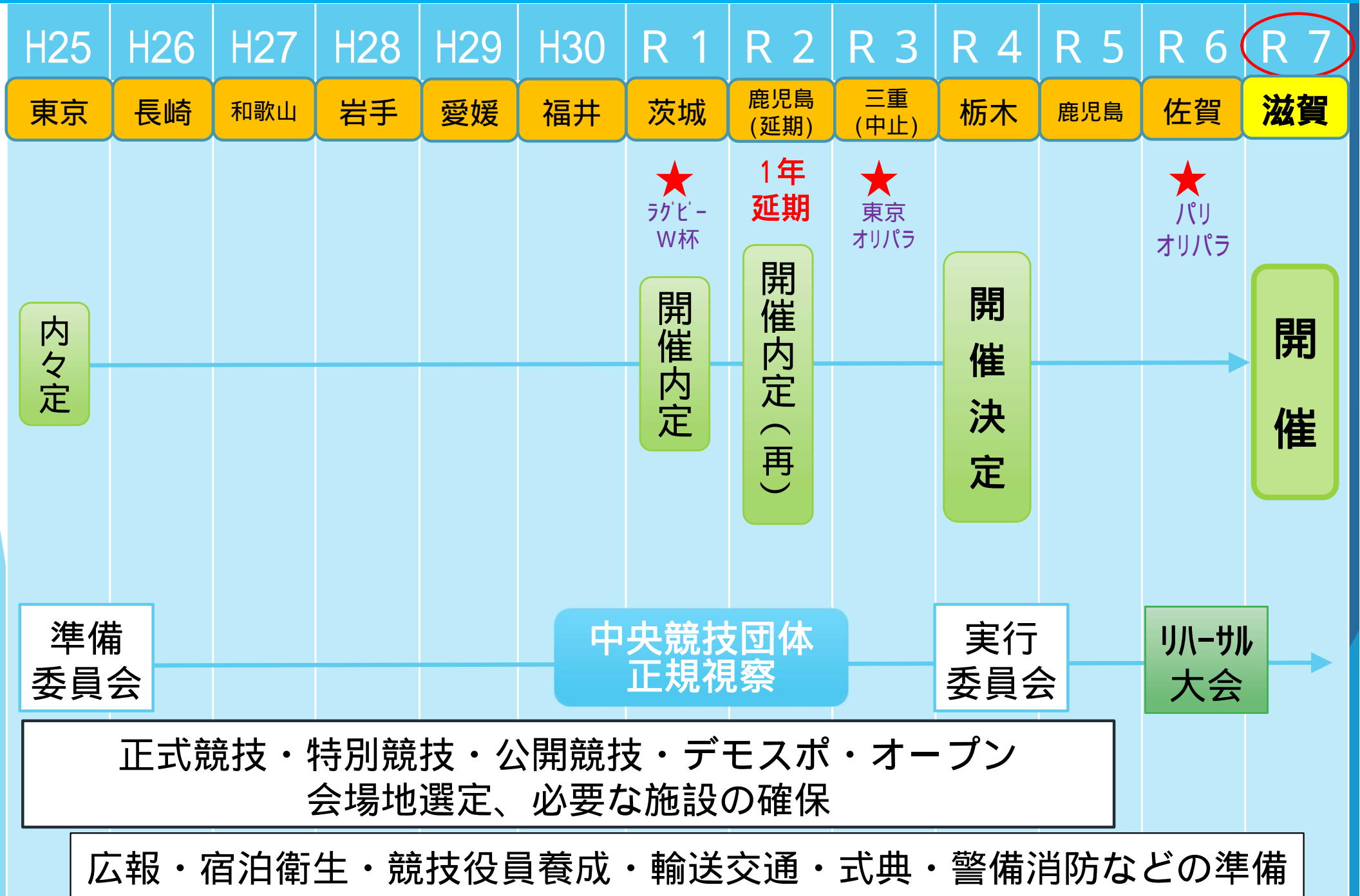
(1) ホストタウン相手国との交流やゆかりの競技の普及

○大津市は 3 月 10 日～21 日、東京 2020 オリンピックのボート（ローイング）競技で金メダルを獲得したニュージーランドの代表選手とチームスタッフを招いて交流イベントや合同練習会を開いた。甲賀市は令和 7 年の全国障害者スポーツ大会の開催競技であるボッチャの体験会を 6 回、市内各地で開催した。

(2) 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会

○2025 年に本県で開催する国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の準備状況や競技会場の内定状況は次のとおり。

開催準備スケジュール



開催準備の状況

大会広報

【現在の状況】

- ・ 広報啓発活動の展開（広報物、メディア、ラッピングバス、駅屋外広告等）
- ・ Twitterやインスタグラムによる情報発信

【今後の取組】

- ・ 広報啓発活動、SNSによる情報発信の継続
- ・ 2年前イベントの開催による機運醸成、公式ポスターを公募により制作
- ・ 企業・団体への広報活動の協力依頼



大会啓発ポスターの制作

県民参加

【現在の状況】

- ・ ボランティア募集要項策定、花いっぱい運動に向けた花育てガイド作成
- ・ 国スポ・障スポ教室の実施（イメージソングを活用した手話教室）

【今後の取組】

- ・ ボランティアの募集開始（開閉会式・競技10,900人、手話要約筆記600人）
- ・ 花いっぱい運動（花育て教室20校で開催）
- ・ イメージソングの学校での啓発（国スポ・障スポ教室、学校内放送等）



花育て教室



ボランティア募集

募金・企業協賛

【現在の状況】

- ・ 企業協賛制度の開始（令和4年8月から）
- ・ 寄附者銘板の設置（令和5年5月）
- ・ 寄附金約4億円、協賛金約3千万円（令和5年5月現在）

【今後の取組】

- ・ 企業・団体に向けた寄附、企業協賛の依頼活動（継続）
- ・ 寄附付商品の販売、イベント会場等での募金活動（継続）

環境配慮

【現在の状況】

- ・ 環境に配慮した大会運営方法の検討

【今後の取組】

- ・ MLGsやCO2ネットゼロを意識した大会に向けた取組検討
- ・ 環境配慮にかかる「宣言」発出

競技役員養成、競技補助員の確保

【現在の状況】

- ・ 競技役員等養成事業補助金の交付、競技役員編成計画の作成

【今後の取組】

- ・ 競技役員等養成事業補助金の交付、競技団体への支援・調整（継続）



寄附者銘板の設置
（平和堂HATOスタジアム）



寄附・企業協賛の依頼活動



競技役員・補助員の養成・確保

開閉会式準備

【現在の状況】

- ・ 式典基本計画の策定（式典全体の基本的な考え方・方向性等を検討）
- ・ 開閉会式場等整備基本計画の策定（仮施設整備に向けた基本的な考え方等検討）

【今後の取組】

- ・ 式典実施計画策定（開閉会式で使用する楽曲・演技の制作、簡素でありながらも滋賀らしい開閉会式の検討等）
- ・ 開・閉会式会場等整備基本設計実施（仮施設の配置等についての基本設計、ゾーニング・動線の検討等）



滋賀らしい開閉会式に向けて



競技会運営準備



障スポ競技会場のバリアフリー調査

競技会運営準備

【現在の状況】

- ・ 全38競技会場地の内定
- ・ 競技運営準備マニュアルの作成、競技用具の必要数調査実施

【今後の取組】

- ・ 競技会開催に向けた県、市町、競技団体の連携推進
- ・ リハーサル大会開催準備（市町への運営経費補助等）

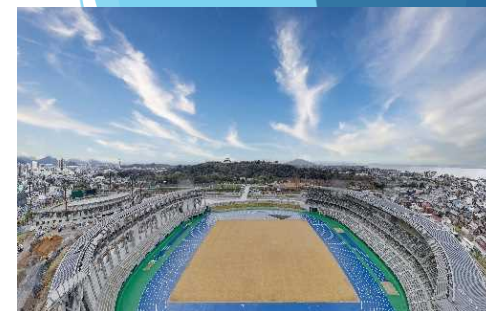
競技会場整備

【現在の状況】

- ・ 競技施設整備計画（第五次）の策定
- ・ 競技会場全67施設のうち、37施設の整備完了（R5.3時点）
- ・ 滋賀ダイハツアリーナ（R4.12）、平和堂HATOスタジアム（R5.4）
供用開始

【今後の取組】

- ・ 競技施設整備計画（第六次）の策定
- ・ 市町競技施設整備費補助金による支援
- ・ 彦根総合スポーツ公園の整備



平和堂HATOスタジアム



滋賀ダイハツアリーナ

宿泊・輸送準備

【現在の状況】

- ・ 合同配宿実施方針の策定（県市町合同での配宿実施）

【今後の取組】

- ・ 宿泊・輸送業務を会場地市町とともに円滑に実施するため、
令和6年度に宿泊・輸送センターを開設予定（場所、規模等の検討）



宿泊輸送センター（先催県）

競技力向上対策事業のポイント

国体における天皇杯順位の結果と目標

開催年	H29	H30	R1	R2・R3	R4	R5	R6	R7
開催地	愛媛	福井	茨城	中止・延期	栃木	鹿児島	佐賀	滋賀
順位	39位	31位	30位	—	20位	10位以内	3位以内	優勝

重点強化種別・種目の強化

国体に出場する選手・チームの強化活動に焦点をあてた支援

- ・「強化指定メンバーリスト」の作成による出場選手・チームの特定
- ・強化活動への参加に対する各所属への協力依頼
- ・近年の本国体で入賞実績のない競技への計画的支援



スポーツ特別指導員
(ショートトラック)

成年選手強化

「成年選手確保計画」に基づく選手獲得の推進とトップアスリートへの支援

- ・「スポーツ特別指導員配置事業」の推進（令和5年4月現在 27人）
- ・県スポーツ協会と連携した採用選手のトレーニング環境・執務環境の充実
- ・「SHIGAアスリートナビ」を通じた選手雇用、ふるさと選手確保の推進
- ・全国トップクラスの実力をもつ成年選手に対する支援の充実

少年選手強化

少年代表選手・チームの重点強化とターゲットエイジの強化

- ・ 高校に進学した世代の候補選手の絞り込みと支援拡充
- ・ 全国トップレベルのターゲットエイジ選手の県内高校への進学促進
- 「強化拠点校単独の強化」から「県代表チームの強化」へ
- ・ 支援対象校の絞り込みと少年種別強化への強化費配分の移行



少年選手の強化
(ライフル射撃)

指導体制強化

国体出場選手・チームの指導体制の確立と選手サポート

- ・ 強化事業に参加する教職員の所属校に対する負担軽減措置（非常勤講師の配置等）
- ・ 中央競技団体との強いパイプや極めて優れた指導力をもつ「スーパーアドバイザー」の定期的な招聘

障害者スポーツ

わたSHIGA輝く障スポに向けたスタッフの確保と育成・強化活動の充実

- ・ 出場選手・チームの特定と不足する選手・スタッフの発掘、確保
- ・ 強化指定選手の育成・強化事業への支援拡充
- ・ 強豪チームや選手との練習機会創出



障スポ大会の競技の様子

2025 わたSHIGA輝く国スポ・障スポ

R5.1月現在

実施競技

国民スポーツ大会

- 正式競技 / 37 競技
- 特別競技 / 1 競技
- 公開競技 / 7 競技

全国障害者スポーツ大会

- 正式競技 / 14 競技

高島市

ウェイトリフティング	ソフトボール	銃剣道
高等学校野球(軟式)	ソフトボール	

大津市

サッカー	テニス	
ローイング(ボート)	体操(競技)	体操(新体操)
体操(トランポリン)	バスケットボール	セーリング
フェンシング	バドミントン	ライフル射撃(25m)
カヌー(スラローム、ワイドカヌー)	空手道	高等学校野球(硬式)
バスケットボール	バスケットボール	

草津市

水泳(競泳)	水泳(飛込)	水泳(水球)	軟式野球	ソフトボール
水泳(アスフィクスイミング)	バレーボール(6人制)	バスケットボール		
バウンドテニス	水泳	バレーボール(精)		

甲賀市

サッカー	軟式野球	ゴルフ
高等学校野球(軟式)	グラウンドゴルフ	フライングディスク
ポッチャ		

サッカーについては、大津市・守山市と甲賀市が準備運営を行います。

栗東市

レスリング	ゴルフ	パワーリフティング

守山市

サッカー	バレーボール(6人制)	軟式野球
ソフトボール	エアロビック	サッカー

湖南市

バレーボール(知)は、知的障害者が出場できる競技です。

剣道	バレーボール(知)

野洲市

バスケットボール	卓球	武術太極拳
卓球(シングル、ダブル、混成)	ラグビーフットボール	

ラグビーフットボールについては、滋賀県が準備運営を行います。

竜王町

スポーツクライミング	軟式野球

日野町

軟式野球

長浜市

水泳(オープンウォータースイミング)	バレーボール(ビーチバレーボール)	ソフトテニス
相撲	柔道	ゲートボール
フットソフトボール		

米原市

ホッケー

彦根市

陸上競技	ハンドボール	弓道
なぎなた	陸上競技	

県市町共催

滋賀県・彦根市・豊郷町・甲良町・多賀町

ボウリング	ボウリング

ボウリングの競技会場は彦根市です。

愛荘町

アーチェリー	アーチェリー

東近江市

サッカー	ボクシング	自転車(ロード・レース)
軟式野球	ソフトボール	カヌー(スプリント)
ゴルフ	グランドソフトボール	

近江八幡市

バレーボール(6人制)	ハンドボール	軟式野球
トライアスロン	綱引	バレーボール(身)

バレーボール(身)は、聴覚障害者が出場できる競技です。

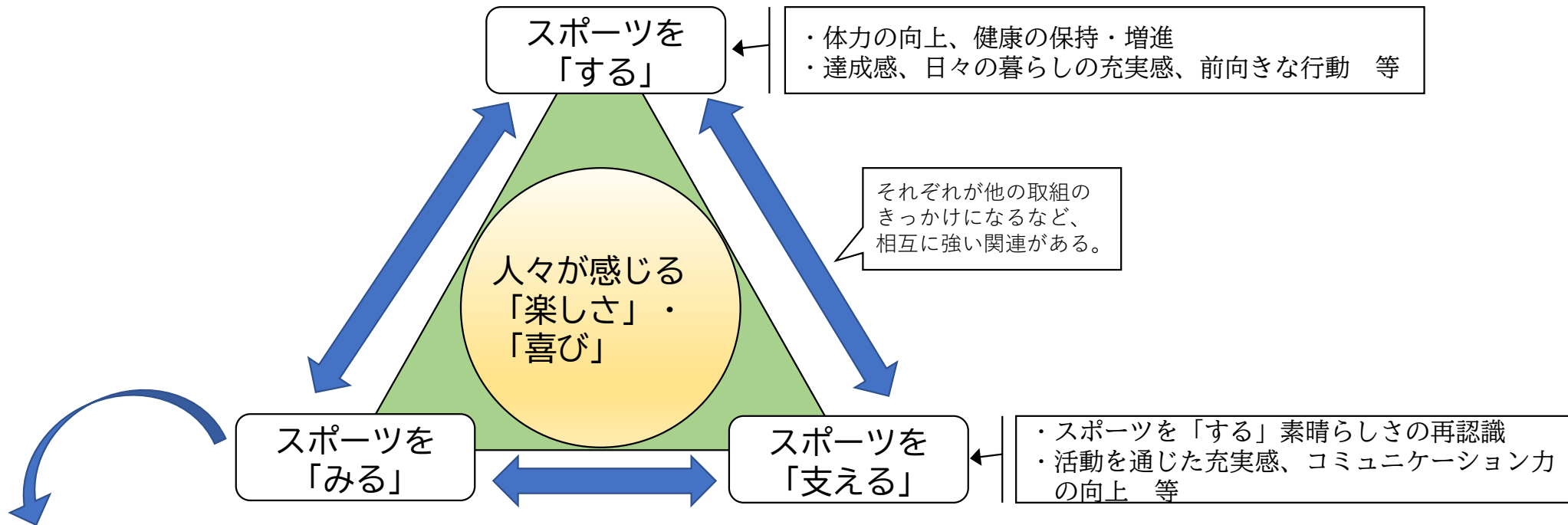
県外開催競技

自転車(トラック・レース)	ライフル射撃(50m, 10m, BR・BP)	馬術

「みる」スポーツにつながる施策について

■滋賀県第3期スポーツ推進計画における「スポーツ」の捉え方

：スポーツを「する」「みる」「支える」という様々な形での「自発的」な参画を通じて、人々が感じる「楽しさ」や「喜び」を感じることに本質を持つもの。（国第3期スポーツ基本計画の考え方を反映）



■「みる」スポーツの効果

：選手が試合や競技に挑戦する姿を「みる（観る）」ことから得られる感動に加え、さらに「応援する」ことを通じて、選手と観客が一つとなれる一体感や帰属意識なども得ることができる。

スポーツを「みる」ことで、

- ①競技に興味・関心が湧き、その競技を「する」ことや「支える」といった取組につながる。
- ②選手の挑戦する姿に心を動かされ、夢や希望、自身への励みといった「明日への活力」につながる。
- ③選手やチームへの応援を通じて一体感が高まり、「地域の誇り」「郷土愛」などの醸成につながる。

からだと
こころの健康

「みる」スポーツによる効果の例（東京2020オリンピック・パラリンピック）

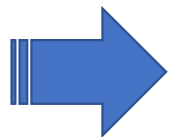
【出典】国 第3期スポーツ基本計画（令和4年3月25日 文部科学省）

○世界中から集まったトップアスリートの競技に打ち込む姿が多くの人々に感動をもたらした。

○仲間同士で励ましあう姿や対戦相手が互いのプレーを称えあう姿を観て、スポーツの持つ力や素晴らしさをあらためて確認することができた。

○アーバンスポーツやパラリンピックの競技種目を新たに知るきっかけとなり、多種多様なスポーツについて高い関心をもって受け入れられた。

○パラリンピックでは、人の可能性や互いを認め合う共生社会を育むことの重要性があらためて認識された。

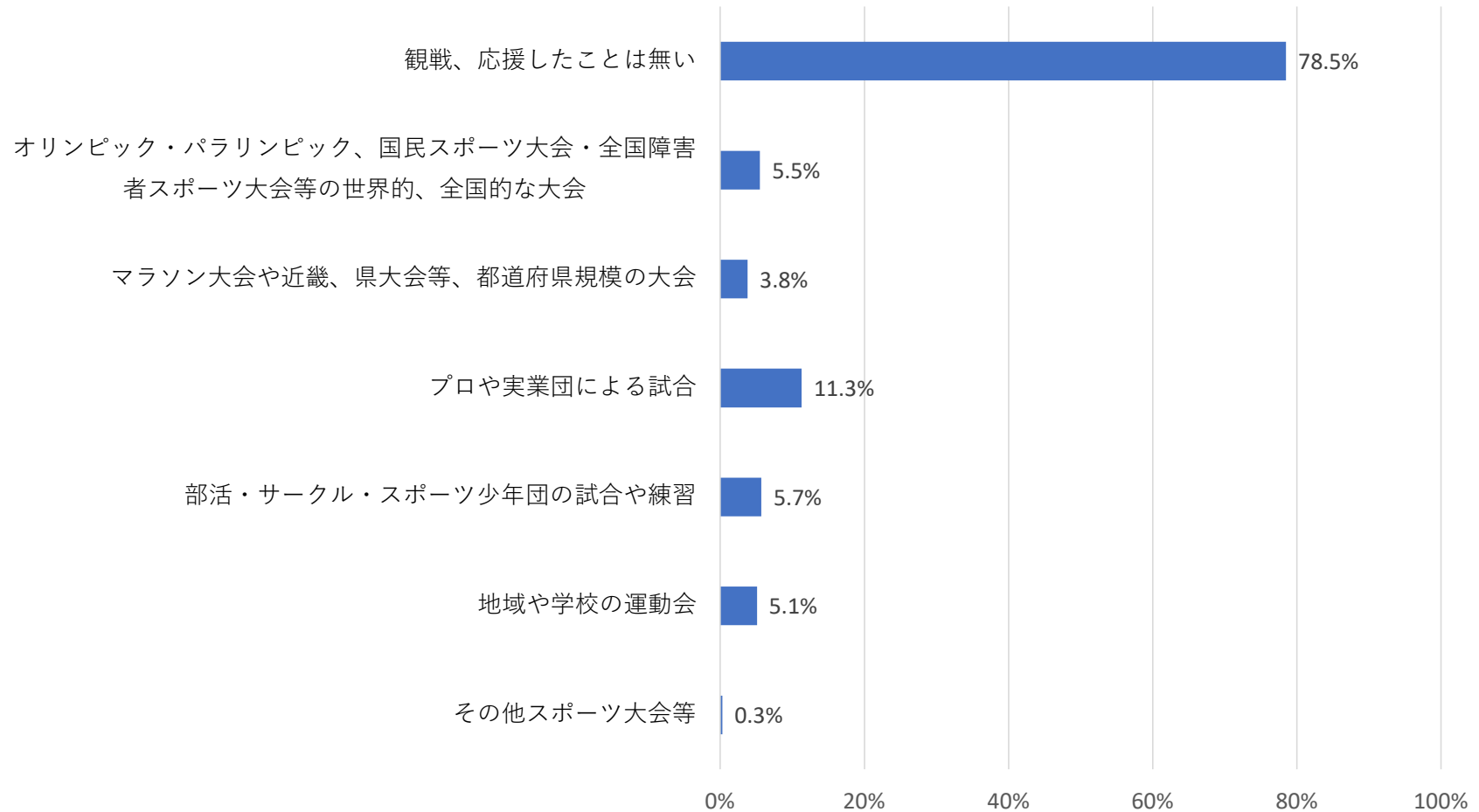


こうした「みる」スポーツの様々な効果や可能性を本県のスポーツ施策に活かし、県民の「からだところの健康」につなげていくことが重要。²

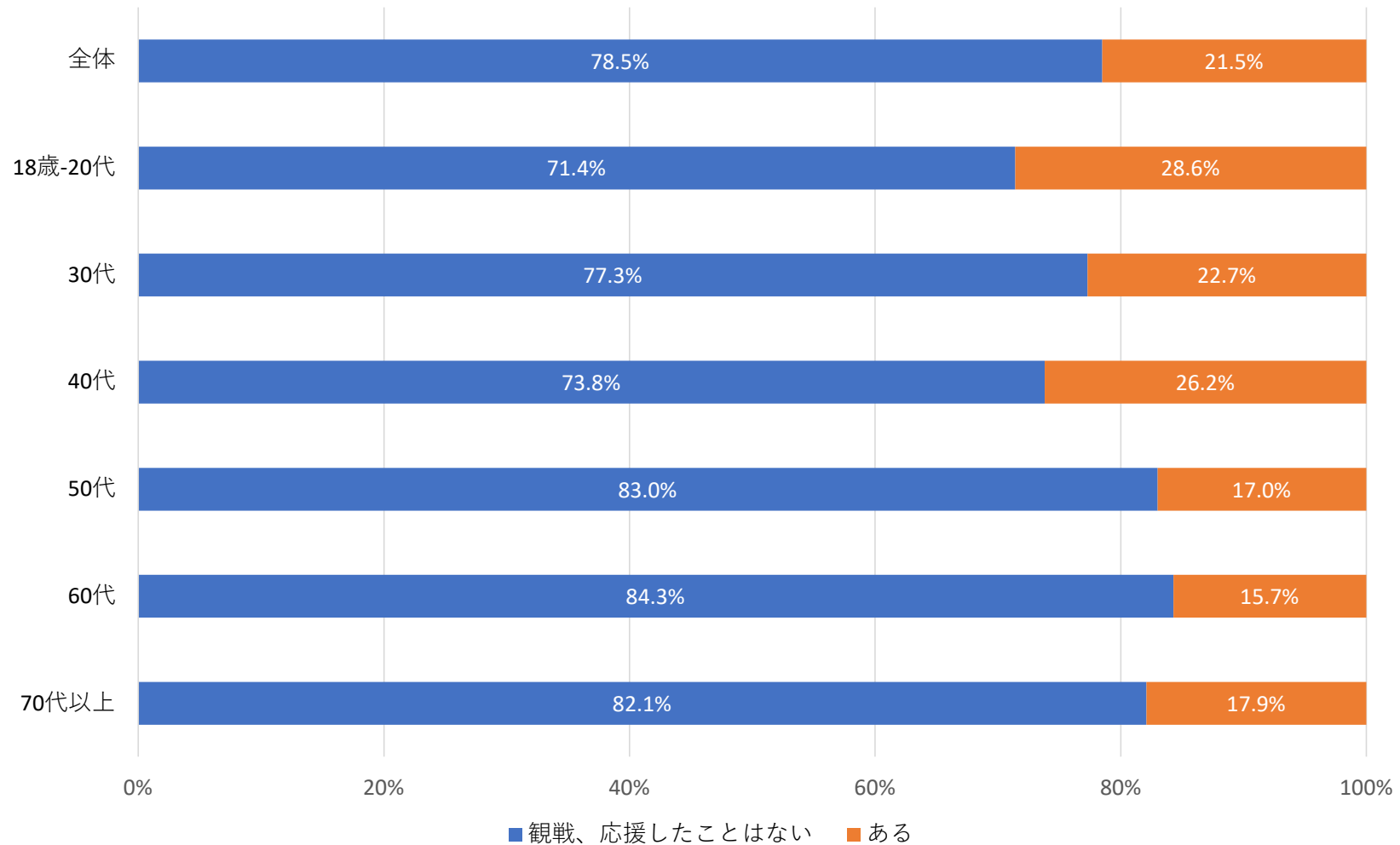
「みる」スポーツに関する滋賀県の状況

(出展：滋賀県 令和4年度スポーツ実施状況調査)

問 あなたは、この1年間に現地でスポーツを観戦、応援したことはありますか。(テレビやインターネットによる観戦は除く) 回答者数=1544 (複数回答あり)

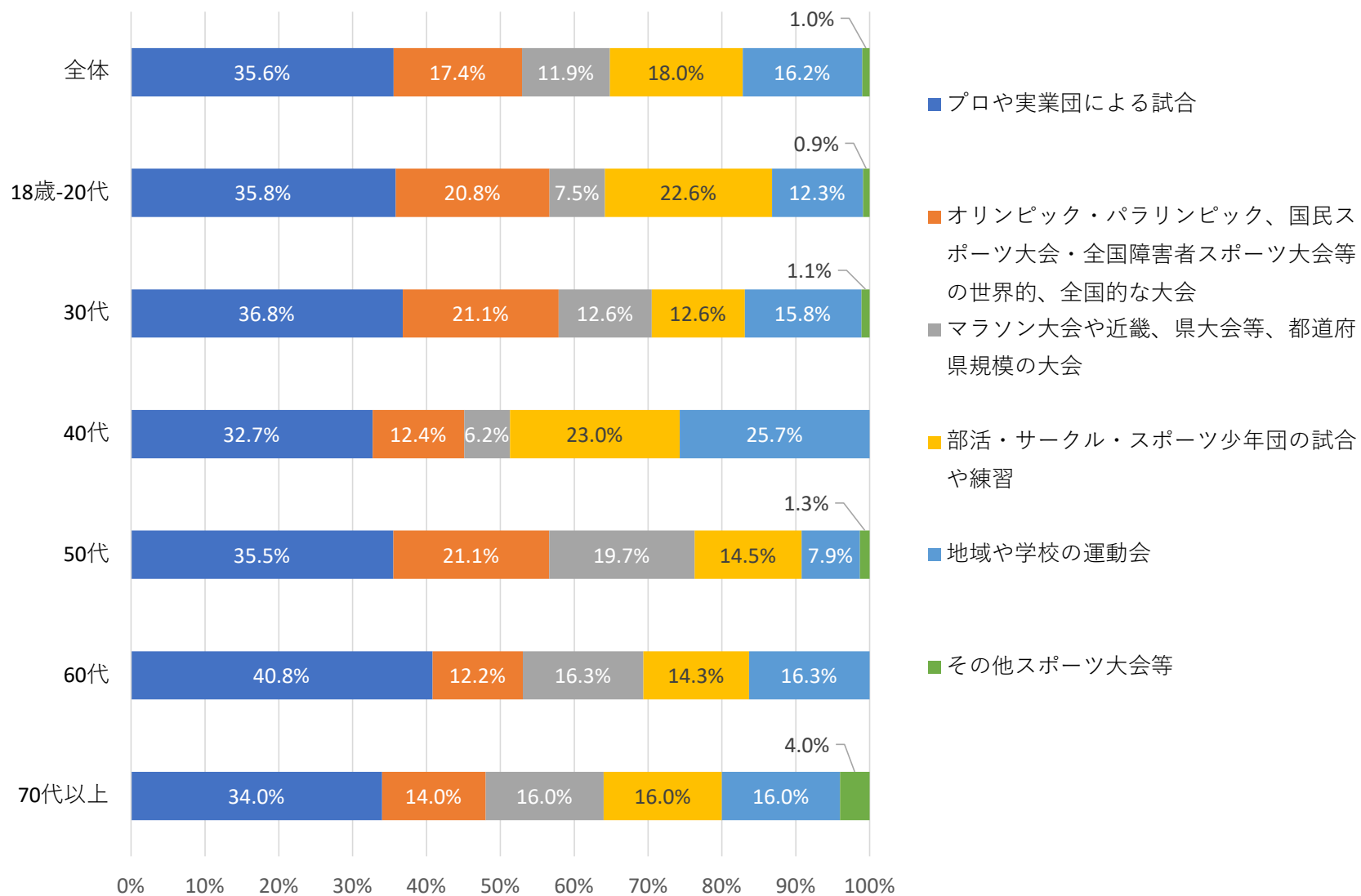


【年代別】 現地でスポーツを観戦、応援したことはありますか



【参考】 全国の状況（スポーツ庁 令和4年度スポーツの実施状況等に関する世論調査）
スポーツ観戦の割合（現地） 観戦した 23.3% 観戦しなかった 76.7%
（TV インターネット） 見た 72.8% 見なかった 27.2%

【年代別】現地でスポーツを観戦、応援したことがある人の内訳



滋賀県の「みる」スポーツに関する施策・事業（第3期滋賀県スポーツ推進計画）

施策 生涯にわたるスポーツ活動の充実

○スポーツの持つ多様な価値の発信

- ・ 県HP「しがスポーツナビ！」でのスポーツ情報の発信（動画配信、インタビュー記事）
- ・ プロスポーツチームや実業団チームを活用した情報の発信（障害者スポーツ体験、トレーニング動画等）

施策 スポーツを生かした地域の活性化

○スポーツイベント等を生かした地域の活性化

- ・ スポーツを「見る（応援する）」ことを通じて地域の魅力を発信する機会にする。
びわ湖マラソン、全国中学校駅伝大会、BIWAKOクロカン、朝日レガッタ 等

○プロスポーツチームを生かした地域の活性化

- ・ プロスポーツチームの発信力を生かした滋賀の魅力発信

プロスポーツチームの試合観戦を通じて以下のようなことが期待

- ①集客効果（スポーツツーリズム）
- ②地域コミュニティの醸成（「語る」スポーツ）
- ③地域のアイデンティティの確立に寄与
- ④地域のブランド力の向上（「広告塔」効果）
- ⑤地元商工業の活性化

■プロスポーツチーム等の試合を実際に「みる（応援する）」ことは、会場の一体感等によって見る者への感情に働きかける効果がより高くなることが期待できる。

■わたしがSHIGA輝く国スポ・障スポ等の大規模大会を控え、多くの県民の皆さんにスポーツを現地で「みて」いただくには、どのような施策を展開するのが良いか。